
音楽科教育部会

「わたしの音楽 みんなで音楽」

～音楽を形づくっている要素を感受し 自ら広げる音楽の世界～

主題設定の理由

新学習指導要領では、一人ひとりの児童生徒がより主体的に音楽を学ぶことを目指している。子どもたちがその音楽のよさを感じ取り、思考、判断して自分達のイメージにあった表現を導き出そうとするなど、音楽の授業が「思考・判断・表現」する場となることが、いっそう求められている。そして「私が感じた音楽」「私が工夫した音楽」「私が表現した音楽」「私がつくった音楽」など、音楽を通した自己実現として表れたり、「私がいいと思う音楽」「私が好きな音楽」など、一人ひとりが自分の価値観を持って音楽を愛好し、自分の言葉でその音楽のよさを説明したりすることをできるようにすることが、音楽の学力として求められている。

このように子どもたちが音楽を価値あるものとして受け入れたり、目の前の音楽を形づくっている要素について、感じ取ったイメージから工夫を考えたり、お互いのイメージを共有しながら、みんなで音楽を試行錯誤したりする活動は、とても重要であると考ええる。

子どもたち一人ひとりに「その子の音楽」が根付き、音楽を通した自己実現として表れることを願い、本主題を設定した。

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

(1) 教材研究

- ・音楽科としておさえるべき基礎・基本の分析
- ・教材選択の視点の明確化（この教材を通じて、子どもたちにどんな力をつけさせたいか）
- ・講習会（創作活動・教材分析・合唱指導）

②授業研究

- ・子ども達がそれぞれの思いを実現し、音楽的満足感を味わえる授業の工夫
- ・音楽を形づくっている諸要素をどのように知覚・感受させ、よりよい表現につなげていくか
- ・指導と一体となる評価のあり方と実践

③明日の授業づくりと教師の技能向上のために

- ・平成22年度東山梨小中学校音楽発表会での合唱実践
- ・教職員音楽発表会出演（合唱）

2 研究の方法

(1) 教協研究日 (10回のうち授業研究日2回)

- ・菱山小学校 野尻 あや子先生 (9月)
- ・山梨北中学校 鶴田 心先生 (2月)

(2) 講習会・学習会

- ・荻原はるな先生「バランスのある音楽科教育とは」 (6月)
- ・古屋幸雄先生「創作活動の指導 ～児童・生徒の作品の分析～」(6月)
- ・横山潤子先生「心の瞳」を使った歌唱指導実技講習 (9月)
- ・薬袋貴先生「今 音楽科に求められるもの」 (2月)

II 成果と課題

年間4回の講習会・学習会を行った。「授業づくり」では、部会の指導助言者の荻原はるな先生からこれからの音楽科の授業に視点を置いたお話を聞くことができた。「創作」では、昨年度に引き続き古屋幸雄先生をお招きし、児童、生徒の作品の分析をしながらご指導をいただいた。「合唱指導」では、「心の瞳」を教材とし、編曲者の横山潤子先生から曲想表現やこの曲に込める横山先生の思いなどを実際に歌いながら教えていただくことができた。また最後に指導主事の薬袋貴先生から、これからの音楽科の新しい授業づくりにおいて大切なこととお話しいただいた。それぞれの講師の先生方から、日々の実践にすぐに活かせる内容をご指導いただき、とても有意義だった。

2回の研究授業は、事前に部会員全員で検討会を行い、授業の流れや内容などを共通理解した上で臨むことができた。小学校では「和音」、中学校では「歌詞」にポイントを絞り、一人ひとりが聴いて、感じて、学習するという感受したことを切り口にした、テーマに沿った授業となった。

来年度も本テーマに沿って研究を進めていくわけだが、感受したことを表現に結びつけるためにはどうしたらよいか、また、音楽づくり・創作の指導について引き続きいろいろな方面から追究し研究を深めていきたい。

III 成果物

指導案

○ 小学校 第5学年

「重なり合う音の美しさを感じ取ろう」

菱山小学校 野尻 あや子先生

○ 中学校 第3学年

「歌詞の内容を考え表現を工夫しよう」

山梨北中学校 鶴田 心先生

(部長 鈴木 奈津美)